

たけのこ

2020.4.20
第3号

人と関わる根っこの育ち

園長 平岩ふみよ

子どもを巡る環境が激変する今私たちが大人は子どもたちに何ができるのでしょうか？。今のようない時代だからこそ、乳幼児期の子どもの根っこの経験を保障すること。それが不可欠だと思います。

今日しばしば指摘される子ども人間関係の脆弱性は群れて遊ぶ体験の少なさからではないかと心配しています。さて、そもそも人は人との「関係」をどのように築いていくのでしょうか。幼稚園の教育要領においても「コミュニケーションと

手洗いうがい・外出や人混みを避け

新型コロナウイルス感染症を防ぎましょう。

子がいます。ちやうどいい程度に抱いたり握ることは…死なないう。逃げないよう大切に。うさぎにちやうどと思いを寄せて抱くことは実はそんなに簡単なことではないのです。

適切なことば。人との関わり、ちやうどよい関係。それを幼稚園の「ちやうど」生活の中で、保育者のその時その時のうけとめ、関わりとった援助の中で体験を通じて学んでいくのでしよう。どんな時も子どもは愛情深く見守られて育つのです。遊んで泣いて甘えて眠って大きくなるのです。

はる、という呼び名は草木の芽がふくらむ様子から来るといわれています。田畑を開墾するという意味もあります。生命力に満ちた新しい季節を喜ぶ気持ちを持ちたい。必ず子どもたちと共に歩みたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の広がりの中での新年度のはじまりです。感染を防ぐための努力をみんなです、かり行ないます。

しての「言葉」の重要性がしっかりと指摘されています。しかしそれらは教科書を使って「教える」「学ぶ」ということで身につけていくのではありません。時間をかけて幼児期の生活の中で体験的にその子その子がいっの間にか学びとって行くのです。その過程は単純ではありません。

例えば、人への要求の場面。「やめてやめて」「これーこれー」と手をひっぱるのも頼むことです。あるいは「ねえーねえーこれーこうしてもいいー」「こうしたいけどー」と提案することもある。実は、子どもにとっては、みんな「してほしい」という「言葉」に他なりません。でもこの中のどの「言葉」がその場面で、ちやうどよい「言葉」で、それをいつ、どこで選んで使えるようになるのかはそれ程簡単ではないのです。うさぎ小屋のそうじの時、年長児はそつとうさぎを触ったり抱っこできます。しかし年少児は、ギュッとカ一杯抱きしめてしま

イギリスのコロナで亡くなった21歳の女性の叔母の「ウイルスが広がっているんじゃない、人がウイルスを広げているんです」というメッセージを強く受けとめたそうです。この一年は幼稚園を休まずに運営することは大変困難な状況です。みなさんの協力と努力と我慢が必要だと思います。どうぞよろしくご理解ください。

